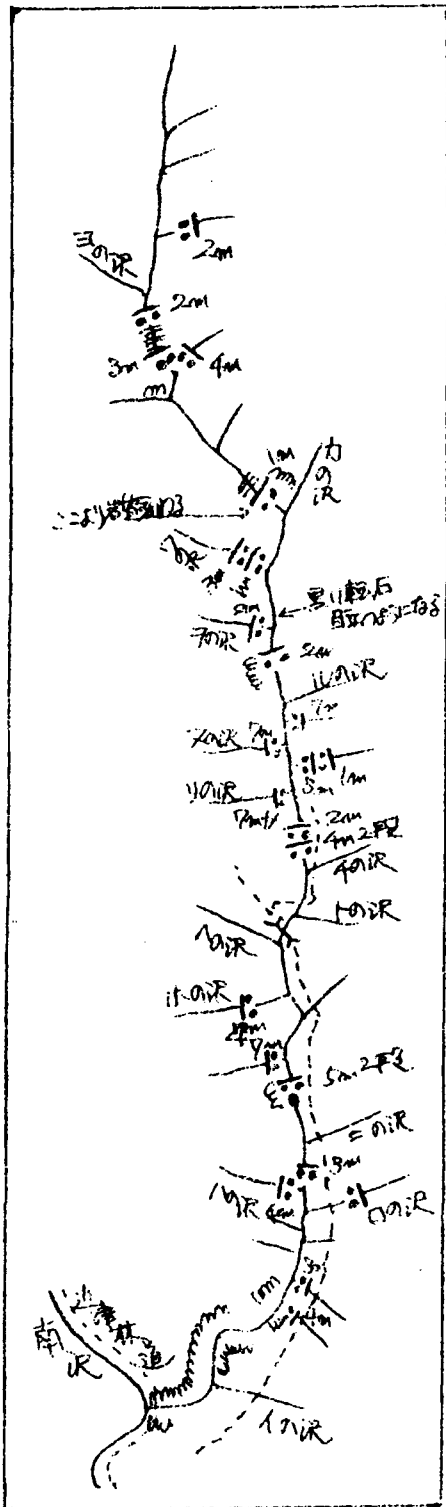


## 北沢本流 1988年9月3日



いつものように山本不動尊の駐車場に車を置いて出発。今日の目的は、北沢である。林道南沢線を歩いて、15分程で出合に着く。出合の橋は、1986年8月の台風くずれの大雨で流され、橋桁の一部が残るのみである。6:45遡行開始。

出合からいきなり廊下が続く。かなり険悪な雰囲気、先を期待させるのであるが、どっこいそうになっていないことは、2年前にヨの沢(仮称)を下降した時に調べがついている。10分程で廊下部分を抜け、先を急ぐ。

7:10北沢本流にかかる最初の滝。3m。右岸から越す。そのあと10分程で2つ目の5m二段滝。中間に瓢穴状のくぼみをもっている。ここの滝には釜がなく、そのかわりそのすぐ下流の岩屑でできた小さな滝状の段差に大きな釜がある。直登する。

このあとは平凡となる。7:35右岸から大きな支沢が合流し、古い木橋をくぐる。そのあと10分程歩くと、また小滝。ここはナメ状で、索に越えてゆける。右岸から合流する支沢が、いずれも滝となって合流するのを見送りながら先に進む。

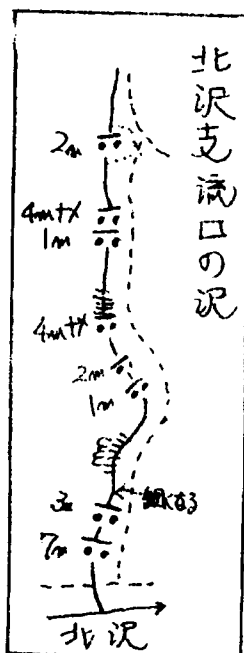
ヲの沢(仮称)出合のあたりから棚倉破砕帯を構成する黒い岩の転石が目立ってきた。そろそろ岩質が変わるのだろう。8:20カノ沢(仮称)出合。ここで花崗岩から黒い岩へと岩質が変わった。なおも本流をつめるが、もうはや源流の装いである。

8:40最後をかざる2つの小滝を直登する。このあとは岩屑を踏みしめながらとにかく登るのみとなった。9:10水もなくなり、遡行終了とする。

[タイム] 山本不動尊(6:30)→北沢出合(6:45)→への沢出合(7:35)→カの沢出合(8:20)→北沢終了(9:20)

### 北沢支流口の沢

1988年9月17日



口の沢(仮称)は小さな沢であるが、北沢ぞいの踏跡を越えた所に7mの滝をかけている。それにひかれての遡行である。10:35遡行開始。

まず最初の7m滝は、左岸を直登する。岩が滑るので注意が必要だが、思ったよりホールドが多くて、割と楽に登れた。その奥に3mの滝がある。そしてそれを越えると、沢は急に細くなった。

細々とした流れは、小滝をまじえながらなおも続く。しかし初めから小さな沢であった口の沢のこと。15分遡った所で源頭となった。遡行終了10:50。宮川支流四ノ沢(仮称)の下降を予定しているので、右手の尾根めざして斜面を登る。尾根には、かすかだが、踏跡があった。

(記)

[タイム] 口の沢出合(10:35)→終了(10:50)

### 北沢支流ハの沢

1988年9月17日

南沢支流口の沢(仮称)の遡行終了後尾根を越して、北沢支流ハの沢(仮称)の下降に移る。急傾斜の斜面を下りきると、細い水の流れが出てきた。そしてすぐ2mの滝。右岸をクライングダウンするが、岩がモロく、すべりやすいので、ちょっと緊張した。

続いて3mの滝。右岸を搦いて下る。その下の5m滝は、

